

農業経済学特論Ⅰ (2単位)

担当者氏名 大久保 武

◆学習・教育目標

1. 大学院での研究方法と論文執筆の習得をめざす。
2. 現代（日本）の農業・食料問題を世界資本主義のなかにいかに位置づけ、どのように認識・理解するかを検討する。

取り扱う領域（キーワードで記載）

学術書・論文の読み方

学術論文の書き方

地域政策

農村の変容

日本の農業政策

経済のグローバル化

農業の基層構造

今日の農業問題

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	[講義のはじめに]	1. 講義の受講するにあたって	本講義の狙いは、受講する大学院生自身が理論と実証そして分析の方法等を学ぶ。 その過程で、自らの研究テーマと論文作成能力を発見し、彫琢しうよう、教員と学生相互が協力しながら学習にあたる。 準備すべき事項は次の2点が重要である。①事前に指定されたテキスト・文献を読んでおくこと。 ②レジュメ担当者は、事前に準備を進めておくこと。
2	大学院における学術研究の方法と技術の取得（2～5週）。	2. 学術書の読書方法、3. アカデミック・ライティングの方法（論文の書き方）、4. ～5. 学術情報や知識の収集の仕方	
3			
4			
5		[前学期] 世界的規模のなかでの農業・食料問題の生産・消費体制をいかにあるのかを学ぶ ※ 指定された著書や論文を輪読することで、資本のグローバルな趨勢と国民国家の枠組みのなかで、食料（農業）をどう認識したらよいのか、本質的な理解を深め検討する。	
6	世界農産物貿易構造(1)	6. グローバリゼーション下の国際農業情勢	
7	世界農産物貿易構造(2)	7. グローバリゼーション下の農産物貿易	
8	世界農産物貿易構造(3)	8. 世界農産物貿易の構造変化	
9	世界農産物貿易構造(4)	9. アメリカの農産物貿易構造と輸出戦略	
10	日本農業の国際化と農地保有・利用構造(10～14週)	10. グローバリゼーションと農地市場の変容	
11		11. 担い手の弱体化と農地利用力の低下	
12		12. 借地条件に現出してきた耕作の不安定化	
13		13. 耕作放棄地の急増・広汎化と問題点	
14		14. 農地確保と有効利用	
15	総括	15. 前学期の総括と反省点を議論する	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

※『食と農の政治経済学 ―国際フードレジュームと階級のダイナミクス』／桜井書店（2012年）

※『グローバリゼーションと世界の農業』／中野一新・岡田知弘／大月書店（2007年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

* 『「農」を論ず』／梶井功編著／農林統計協会（2011年）

* 『農業・食料問題入門』／田代洋一著／大月書店（2012年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

課題に対する論述のレポート提出（70点）／レジュメ作成などに対する課題と評価（30点）

◆その他受講上の注意事項

与えられたテーマや課題に対して、積極的に取り組む熱意のある院生を望む。

自主的に論文作成の課題に取り組み、自らの理論と実証に関する方法論を確立できるよう授業に臨むこと。